

豊川小だより

5月号

ホームページ
QRコード



令和6年5月1日
北区立豊川小学校
校長 中村 順子

「かんがえる子」→「かんがえた子」

校長 中村 順子

1年生の教室前の廊下に、1年生が図工の学習で描いたかわいいこいのぼりが、色とりどりに泳いでいます。近隣の保育園の園庭にも、こいのぼりが元気よくはためいています。令和6年度のスタートからあっという間に1か月が経ちました。どの学年の児童も学習リズムをつかんだようで、落ち着いて学習に向かう姿が見られています。これも、登校班や委員会活動、1年生のお世話などを通して、6年生がよい手本を示しているおかげだと感じています。これからの6年生の成長が楽しみです。

*

4月19日（金）、初夏の体力テストの実施を前に、4年生を対象に「投げ方教室」を行いました。講師には、プロ野球東京ヤクルトスワローズの元選手、現在は球団広報の三輪正義さんをお迎えしました。三輪さんは、球団の社会貢献活動の一環として、正しいボールの投げ方の指導をすることを通して、東京の子供たちに野球の楽しさを伝える活動をされています。プロのユニフォームに身を包んだ三輪さんに会った4年生たちは、初めは少し驚いた表情をしていましたが、三輪さんのテンポよい巧みな話術にどんどん引き込まれ、すぐに元気いっぱい活動を始めました。三輪さんから、目を合わせて話を聞くことやきびきびと行動することは、ひいては自分自身が効果的に学ぶことにつながっていくと説明されると、すぐにそれを取り入れて行動する姿が見られました。そして、ボールを持つ手の位置、踏み出す足の幅、視線、そして相手を意識して取りやすい球を投げる気配りなど、様々なアドバイスをもらいながら、キャッチボールや遠投などのプログラムが進んでいきました。三輪さんから「いい高さ!」「相手を見てるね!」「手を大きく使っていて上手!」などとたくさんほめていただくにつれて、子供たちの「1, 2, 3!」の投げる掛け声もどんどん大きくなっていきました。あっという間の1時間となったようでした。

*

4年生3クラスの「教室」が全て終わり、校長室で三輪さんと話していたところ、三輪さんがこうおっしゃいました。「お子さんが、『ボールを投げるのに、こんなにいろんなことを考えたことなんて、今までなかったよ!』と僕に話しかけてくれたんです。そして「実際、ボールなんて投げられなくても、人生に影響ないんですよ。でも、今日のこの体験を通して、お子さんたちが、苦手なことにチャレンジすることや、友達と一緒に活動する楽しさなど、様々なことを感じてくれたらうれしいです。」そう付け加えられました。そのことを伺いながら、豊川小が今年度から掲げた教育目標の一つ「かんがえる子」が知らず知らずのうちに児童に浸透して行きつつあることを感じ、私はうれしくなりました。

*

「おもいやる子」「かんがえる子」「げんきな子」の3つの教育目標のうちの『かんがえる』ことは、教室での座学で学んでいくことはもちろんですが、「どうしたら友達ともっとなかよくできるかな」「どこに気をつけたらもっとうまくプレーできるようになるかな」など、他の2つの目標の礎にもなっています。今年度の本校の研究テーマである「非認知能力が高い児童を育成する」ためにも、教職員一同、多面的に考え学ぶことができる児童の育成に尽力してまいります。豊川小の児童の変容にご期待いただければと思います。

